

## 墓地

あなたは言つた  
かうやつて手に受ける月の光が  
しづくのやうに美しい と  
やがて坂道にかかり  
植込の垣が迫り その間から  
四角な石の列が見えはじめ  
墓場だとわかつたら  
ぞつとしたやうに 身をふるはせて  
立ちどまつて あなたは言つた  
いつたい ここ どこでせう  
ここ どこでせう どこ どこ  
僕には それが 鳥の声のやうに  
どす黒く聞えた  
》あなたが 僕を愛してゐるならば  
どこへでもついて来ればいい  
死者たちに見守られ つめたい月の光の下で  
あなたの肌をぼくに見せてくれてもいいのに  
帰り道 月の光も黄色くよごれたやうに思へた  
墓地からはあざける声がひびき  
あなたが鬼ばばあに見えた